


今 月 の 一 冊

元木更津市教育委員会教育長 西村 堯 選

品格語辞典

関根健一 監修・大修館書店編集部 編 ・ 大修館書店

ISBN978-4-469-02124-0

1,800 円 + 税

誠に良い本に巡り会えた。嬉しい！何よりも、私の嫌いな言葉を取り上げて、豊富な用例で解説してくれるのが嬉しい。

私の嫌いな言葉、「うざい」はどうか。「うざい」は、「いじめ」の言葉として、よく使われる。私などは、「おまえは、うざいんだよな」などと言われれば、もう卒倒してしまう。

「うざい」の項(p.30)を見てみよう。まず、「鬱陶(うっとう)しい」が「品格語」として挙げられ、「うっとうしい梅雨空が広がる」と用例がある。

以下、「小うるさい」、「目障り」(見ると不快になる)、「いとわしい」(嫌で接してられない)、「疎ましい」(「母の小言が疎ましい」)、「おぞましい」、「煩わしい」と解説が続く。「いじめ語」としては、さしづめ、「目障り」、「いとわしい」あたりを含んだ言葉だろう。人格の全否定につながる。学校へ行きなくなるのもよくわかる。

所々に「品格マップ」というのが掲示されていて、その語の「品格度」が、図で分かるようになっている。「うざい」にも品格マップがついている。

もう一つ、私の嫌いな言葉として、「やばい」がある。私の感覚では、「やばい」は「その筋」の人が、不利な状況が迫っているときに使った言葉のように感じていた。案の定、「明鏡国語辞典」によれば、「もと盗人などが身辺が危ない意で使った隠語」とある。(ちなみに「広辞苑」では、「不都合である。危険である。『一・事になる』」とだけあって、素っ気ない。)

さて、「品格語辞典」では、「やばい」について、2 ページにわたって(p.244～p.245)解説している。(品格マップもついている)

大きく分けて三つに分類。

- 1 不利な状況が迫るさま
- 2 (望ましくないことについて)程度が激しい
- 3 (望ましいことについて)程度が激しい

「明鏡」によれば、近年、若者達の間で 3 の用法をされるようになったと説明がある。私などは、3 の用法には、非常に違和感を覚える。言葉は変化するものだから仕方がないか！？

この辞典の特色は、まず、索引が充実していること、であろうか。巻頭に「分類からさがす 見出し語一覧(500 項目)」があり、巻末に「五十音索引」がある。

第二の特色は、品格語(約 3300 項目)について、「使う際の目安」として、品格レベルを示している。品格レベルは三段階で、☆…日常的に使えて、失礼にならない表現、☆☆…挨拶文や社交的な会話などで使うと効果的な表現、☆☆☆…格調高く優雅だが、仰々しくなることもある表現、である。

例えば、「あう(会う)」では、

- ☆ … お目にかかる。会見。対面。面会
- ☆☆ … 謁見。お目通り。邂逅。接見。

☆☆☆ … 警咳に接する

という具合である。

第三の特色は、品格語の意味や使い方を適宜「▽マーク」で示している。これは、非常に分かり易い。「警咳に接する」で言えば、「『文学』老師の警咳に接する」とあり、「文学」とは、文学作品で特に多く使われることを表し、▽印で、「警咳」は咳払い。「尊敬する人にじかに会う。」と補説する。

用例が豊富で、「場面や文脈に応じた使い方がわかる」のも、この辞典の特色であろう。(余分な感想だが、落語のタネが尽きそうな予感がする。八つぁん、クマさんが、難しい言葉を間違えて使うことがなくなるからだ。)

教師の言葉遣いは、子どもにとって、最大の言語環境である。いつも優雅で品格ある言葉だけしゃべっていても、子ども達に「うざったく」思われ、敬遠されてしまうが、芯には「品格語」を心得ていたいものだ。

3月、4月は、儀式が続くので、お手元に一冊どうぞ。

今月の一冊 (令和5年3月号 第189号)